

日本ジオパーク委員会再認定審査の
指摘事項に対するアクションプラン

平成30年3月

山陰海岸ジオパーク推進協議会

目 次

1	アクションプラン策定趣旨	1
2	指摘事項対応の基本方針	1
3	改善に向けた対応の概要	2
4	各指摘事項への対応	4

[参考]

	山陰海岸ジオパークステップアップ会議実績報告書	18
--	-------------------------	----

1 アクションプラン策定趣旨

山陰海岸ジオパークは、平成 29 年 9 月 27 日に行われた日本ジオパーク委員会による再認定審査で、2 年間の条件付き再認定とされた。過去 4 年間のジオパークとしての活動や運営のレベルが十分ではなく、改善を求められている。

とりわけ、地域間の連携や運営体制のあり方といった点に課題があるとされており、ジオパークとしての持続可能性を早急に確保する必要がある。このため、指摘を受けた 1 年以内に緊急に解決すべき課題と 2 年以内に解決すべき課題の両方について、改善ための対応方針を明らかにするためのアクションプランを策定する。

2 指摘事項対応の基本方針

(1) 対話と議論を通じたユネスコ世界ジオパークとしての発展方向の共有

山陰海岸が有するユネスコ世界ジオパークの地域資源を生かし、どのような姿を目指して発展していくのかを、絶えざる対話を通じて意識共有を図る。そのため、「山陰海岸ジオパークステップアップ会議」をはじめ、テーマや課題に応じた重層的な話し合いの機会を設ける。あわせて、推進協議会の運営委員会や専門部会、自治体間の連携会議の活性化を進める。

(2) 地域住民、活動団体、自治体など関係者間の連携と参画を促す管理運営体制の強化

エリア内の各地で展開される積極的な活動をつなぎ、マクロに統括する体制が欠けていることを改善するため、ジオパークの経営や戦略立案に携わるマネージャー人材の発掘雇用、主要なスポンサーである自治体間の調整能力に長けた事務局長を配置する。関係者間の連携は、上記(1)の機会を通じても促進する。また、ロングトレイルコースの検討など、広域ジオパークの連携を強化するための事業にも取り組む。

(3) ガイド育成、周遊の導線づくり、拠点施設の機能強化を通じたジオツーリズムの推進

広域ゆえに、来訪者や地域の人にとってジオパーク全体の理解が難しいという山陰海岸ジオパーク特有の課題を解決するため、ガイド研修や教材の充実、拠点施設における解説や情報提供の工夫と充実、「新温泉町立山陰海岸ジオパーク館」と「鳥取県立海と大地の自然館」の各館の機能充実と役割分担の明確化を図る。これらとあわせ、ジオパークの学びのツールともなるテーマに応じたツアールート の提案等を行い、ジオ資源を生かしたツーリズムを推進する。

3 改善に向けた対応の概要

(1) 緊急(1年以内)に解決すべき課題への対応

① 管理組織・運営体制

ア ジオパークの将来的方向性を定めるための事務局・構成自治体間の情報共有や議論

<対応概要>

- ・ ジオパークの持続可能性確保や将来の方向性を議論し、解決策を見いだしていくための「山陰海岸ジオパークステップアップ会議」の開催
- ・ 「府県市町連携会議」の開催頻度及び質を向上させ、事務局、構成自治体、学識専門員が活動目標を共有するためのコミュニケーションの促進
- ・ 推進協議会運営委員会や各部会（学術、教育、ツーリズム、ガイド、保護保全、地域産業）での議論の活性化及び合同部会の開催

イ 地域間の連携を通じて全体を発展させるための実効性のある運営体制構築の方向性

ウ ジオパークの統一性を確保するための実践力のある組織体制の構築の方向性

<対応概要>

- ・ ジオパークの経営や戦略立案に携わる責任者としてのマネージャーを発掘と雇用。同マネージャーは、ジオパークの運営全般を指揮し、また長期的に就任することにより、地域間や活動主体間の連携促進も担う。
- ・ 山陰海岸ジオパークエリアの地域事情に詳しい自治体OBの事務局長への就任。主要なスポンサーである地方自治体との調整役として能力を発揮。
- ・ 推進協議会に会長顧問等会議を設置し、関西広域連合との連携や府県間の調整を実施。

② ジオパークの理解

ア 事務局と関係者がジオパークに対する認識を共有するためのコミュニケーション

<対応概要>

- ・ (1)①アへの対応への同じ
- ・ 事務局や関係者を対象としたユネスコ I G G P ガイドライン勉強会の実施

(2) 2年間で解決すべき課題への対応

① ジオガイドの質向上とガイド団体の連携

<対応概要>

- ・ 推進協議会学術部会等と連携し、ガイド内容の学術的正確性の向上やジオパーク全体を俯瞰して案内できるガイドの養成を図るためのガイド研修の充実や公認ガイド認定制度の見直し実施
- ・ ジオパークエリア内のガイドツアー共通アンケートを実施及び全ガイド団体へのフィードバックを通じた情報共有と連携の促進

② ジオツーリズムを推進するための導線づくり

<対応概要>

- ・ 拠点施設のジオパーク全体の中での位置づけ、ジオパーク全体のテーマ「日本海形成に伴う多様な地形」と各ジオサイトの関連が理解できる解説や情報提供の充実
- ・ 訪問者のニーズに合わせ、テーマごとにジオサイト等をつなぐ多様なツアールート の提案
- ・ ジオパークを横断（約 120km）するロングトレイルコースの設定を検討

③ 新温泉町立山陰海岸ジオパーク館の情報収集発信機能の強化

<対応概要>

- ・ 新温泉町立山陰海岸ジオパーク館のアーカイブや展示充実による施設の機能向上
- ・ 鳥取県立海と大地の自然館を新温泉町立ジオパーク館と同様に中核拠点化。両館の役割分担を明確化し、2館が中核拠点として補完し合う体制の構築

以下に、今回の再認定審査での指摘事項に対する改善計画の詳細を記す。

4 各指摘事項への対応

期 間	緊急(1年以内)に解決すべき課題
項 目	① 管理組織・運営体制 ア ジオパークの将来的方向性を定めるための事務局・構成自治体間の情報共有や議論
対応案	ジオパークの持続可能性確保や将来の方向性を議論し、解決策を見いだしていくための「山陰海岸ジオパークステップアップ会議」の開催 [関連基本方針：(1), (2)]
実 施 内 容	<p>■趣旨</p> <p>地域住民を含むジオパークに関わる多様な人材が一堂に会し、ユネスコ世界ジオパークとしての再スタートを切るための議論を積み重ね、意識の統一を図る。</p> <p>■実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップ形式を基本とした話し合い ・外部講師の招聘 ・議論を積み上げていくため継続的な参加を促進 ・ユネスコ世界ジオパークガイドラインの振り返り など <p>■会議テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな地域にしたい ・理想のジオパーク (2017 第1回) ・連携するってどんなこと (2017 第2回) ・山陰海岸ジオパークの合い言葉をつくる (2017 第3回) など
実 施 スケジュール	<p>■2017年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回 2018年1月26日 京丹後市 ・第2回 2018年2月4日 豊岡市 ・第3回 2018年2月19日 鳥取市 ・2018年3月「2017年度実績報告書」とりまとめ及び公表 <p>■2018年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマを変えて計3回開催予定 ・2019年3月「2018年度実績報告書」とりまとめ及び公表

期 間	緊急(1年以内)に解決すべき課題
項 目	① 管理組織・運営体制 ア ジオパークの将来的方向性を定めるための事務局・構成自治体間の情報共有や議論
対応案	「府縣市町連携会議」の開催頻度及び質を向上させ、事務局、構成自治体、学識専門員が活動目標を共有するためのコミュニケーションの促進 [関連基本方針：(1), (2)]
実 施 内 容	<p>■趣旨</p> <p>ジオパークエリア自治体間の連携と連絡調整等を図るため、府縣市町が集まり、事業の企画、計画立案、進捗管理、情報共有を図る。</p> <p>■実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本メンバー：協議会構成自治体（3府県3市3町）の課長、担当者等 ・オブザーバー：兵庫県立大学学識専門員 ・必要に応じ、拠点施設関係者、ジオパークガイド、アクティビティ事業者等の臨時参集や外部講師を招聘 ・開催場所：エリア内でローテーション開催 <p>■主な議題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該年度事業に係る効果的な目標設定や実施方法の検討、進行管理 ・行政区域をまたがる連携事業の実施調整、他府縣市町事業の周知・実施協力 ・次年度事業計画素案、収支予算素案の検討 ・次期行動計画の改訂素案の検討 ・推進協議会事務局等、運営体制の見直し検討 など
実 施 スケジュール	<p>■2017年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定例会議は毎月1回開催 ・条件付再認定への対応等のため臨時会議を開催（10月、1月） ・テーマや地域課題に対応した部会等を開催 <ul style="list-style-type: none"> 京丹後ジオパークネットワーク推進会議（1月） 山陰海岸ジオパークトレイル全通検討会（1月） 同トレイル受入体制整備部会（1月） 山陰海岸ジオパーク鳥取県連絡協議会（1月） <p>■2018年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定例会議は毎月1回開催 ・テーマや地域課題に応じ、限定メンバーによる部会等の開催や他ジオパークの視察

期 間	緊急(1年以内)に解決すべき課題
項 目	① 管理組織・運営体制 ア ジオパークの将来的方向性を定めるための事務局・構成自治体間の情報共有や議論
対応案	推進協議会運営委員会の各部会（学術、教育、ツーリズム、ガイド、保護保全、地域産業）での議論の活性化及び合同部会の開催 [関連基本方針：(1), (2)]
実 施 内 容	<p>■趣旨 山陰海岸ジオパークの目標や経営戦略、行動計画等をつくるための分野横断的な議論を行い、ユネスコ世界ジオパークとしての意識の統一を図る。</p> <p>■実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各部会の合同開催による横断的な課題検討 ・外部の有識者、専門家、ネットワーク関係者等の部会への招聘 <p>■分野横断的に解決すべき課題の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地球科学的視点の案内手法、住民参画による環境創造プログラムの導入、ロゴマークのブランド化構築、教育旅行の誘致 等
実 施 スケジュール	<p>■2017年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営委員会 第1回：条件付き再認定を受けた論点整理等今後の対応を検討、プログレスレポート案の承認、2016年度事業の効果検証（10月） 第2回：アクションプラン案の承認、世界再認定審査行程案、ガイド認定制度見直し案の検討（3月） ・部会 地域産業・ツーリズム合同部会：条件付再認定への対応の検討等（1月） ガイド部会幹事会：条件付再認定への対応の検討等（1月） 学術保護保全合同部会： アクションプラン案、世界再認定審査行程案、ガイド認定制度見直し案、保護保全管理計画改定案の検討等（2月） ガイド交流会：南紀熊野ジオパークとの意見交換等（3月） 学術部会：2017年度事業の効果検証（3月） <p>■2018年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営委員会（5月、10月、3月） ・合同部会の開催予定 学術ガイド合同部会（5月）、学術保護保全合同部会（10月）、学術地域産業合同部会（3月）教育地域産業ツーリズム合同部会（5、10月）

期 間	緊急(1年以内)に解決すべき課題
項 目	<p>① 管理組織・運営体制</p> <p>イ 地域間の連携を通じて全体を発展させるための実効性のある運営体制構築の方向性</p> <p>ウ ジオパークの統一性を確保するための実践力のある組織体制の構築の方向性</p>
対応案	<p>ジオパークの経営や戦略立案に携わる責任者としてのマネージャーを発掘と雇用。同マネージャーは、ジオパークの運営全般を指揮し、また長期的に就任することにより、ジオパークの顔役として、地域間や活動主体間の連携促進も担う。</p> <p>[関連基本方針：(2)]</p>
実 施 内 容	<p>■趣旨</p> <p>ゼネラル・マネージャー（仮称）の設置により組織、運営体制を強化し、ジオパークとしての持続可能性を確保する。</p> <p>■実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職務内容や求められる資質を踏まえた人選 ・募集方法や勤務条件の検討 ・必要な人件費を確保するための自治体負担金の検討 ・ゼネラル・マネージャー（仮称）を支えるため、設置目的や期間を特定したワーキンググループやタスクフォースの設置（民間、学者等も参加）
実 施 スケジュール	<p>■2017年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人物像、候補者に求められる資質、雇用条件、募集方法等の検討 ・「新温泉町ジオパーク館」機能向上のためのタスクフォース設置 <p>■2018年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2018年度前半、ゼネラル・マネージャー（仮称）の募集 ・2018年度後半以降、遅くとも2019年度当初からの就任

期 間	緊急(1年以内)に解決すべき課題
項 目	<p>① 管理組織・運営体制</p> <p>イ 地域間の連携を通じて全体を発展させるための実効性のある運営体制構築の方向性</p> <p>ウ ジオパークの統一性を確保するための実践力のある組織体制の構築の方向性</p>
対応案	<p>山陰海岸ジオパークエリアの地域事情に詳しく、また、これまでの事務局長よりも長期間在任できる自治体OBが事務局長へ就任する。このことで、より住民と接し、地域のあらゆる主体との連携の促進を図るとともに、主要なスポンサーである地方自治体との調整などの実務能力を生かす。</p> <p style="text-align: right;">[関連基本方針：(2)]</p>
実 施 内 容	<p>■趣旨</p> <p>従来2年ごとに交代してきた推進協議会事務局長に、3年程度以上の期間就任できる職員が就くことにより組織、運営体制を強化し、ジオパークとしての持続可能性を確保する。</p> <p>■実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・推進協議会構成員の意見をもとに、3府県の人事担当部門による人選 <p>■事務局長の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゼネラル・マネージャー(仮称)と協力し、事業や計画の立案、連携促進 ・関係自治体(3府県3市3町)首長や幹部との調整 ・GGNやJGN等ネットワーク活動 ・負担金、寄付金、協賛金等の収入確保
実 施 スケジュール	<p>■2017年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3府県の人事担当部門による人選 <p>■2018年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2018年4月に着任

期 間	緊急(1年以内)に解決すべき課題
項 目	<p>① 管理組織・運営体制</p> <p>イ 地域間の連携を通じて全体を発展させるための実効性のある運営体制構築の方向性</p> <p>ウ ジオパークの統一性を確保するための実践力のある組織体制の構築の方向性</p>
対応案	<p>推進協議会に会長顧問等会議を設置し、関西広域連合との連携や府県間の調整を実施する。</p> <p style="text-align: right;">[関連基本方針：(2)]</p>
実 施 内 容	<p>■趣旨</p> <p>指摘された地域間連携不足を解消するとともに、統一性を確保した組織運営を行うため、会長、顧問（府県知事）、関西広域連合委員（ジオパーク担当）等の協議、調整の場を設け、エリア全体の広域課題の対応にあたる。</p> <p>■実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広域的な観点から解決すべき案件が発生した場合に開催 ・出席者：会長、関西広域連合委員（ジオパーク担当）、顧問（府県知事）、ゼネラル・マネージャー(仮称)、必要に応じ他の協議会役員 <p>■会議の役割(想定)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エリア内の府県をまたぐ広域的な事業や拠点施設の役割分担の調整 ・ジオパークの持続可能性を高めるための財源や人材の確保
実 施 スケジュール	<p>■2018年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関西広域連合委員会や山陰近畿自動車道整備決起大会等の参集の機会を活用し、必要に応じて開催

期 間	緊急(1年以内)に解決すべき課題
項 目	② ジオパークの理解 イ 事務局と関係者がジオパークに対する認識を共有するためのコミュニケーション
対応案	事務局や関係者を対象としたユネスコ I G G P ガイドライン勉強会の実施 [関連基本方針：(1)]
実 施 内 容	<p>■趣旨 推進協議会事務局職員や関係者が、ユネスコ I G G P ガイドラインの理解を深めることにより、ボトムアップによる保全、地形地質遺産と地域の持続的発展の促進といったユネスコ世界ジオパークとしての使命への理解を深める。</p> <p>■実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学識専門員やジオパーク専門員と協力し、共通した基礎教材の作成 ・事務局職員に加え、関係機関職員も交えた研修会の開催
実 施 スケジュール	<p>■2018 年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人事異動の職員交代時期等に合わせて研修会の開催（4月） ・各市町の研修会や市民講座での教材提供や勉強会の同時開催（随時） <p>■2019 年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記の継続実施

期 間	2年以内に解決すべき課題
項 目	①ジオガイドの質向上とガイド団体の連携
対応案	<p>推進協議会学術部会等と連携し、ガイド内容の学術的正確性の向上やジオパーク全体を俯瞰して案内できるガイドの養成を図るためのガイド研修の充実や公認ガイド認定制度の見直し実施</p> <p style="text-align: right;">[関連基本方針：(3)]</p>
実 施 内 容	<p>■趣旨</p> <p>来訪者の山陰海岸ジオパークについて正しく理解が深められるよう、ジオパークガイド向けの研修機会の充実や公認ガイド制度の見直しを図り、ガイド内容の学術的な正確性の向上を図る。</p> <p>■ガイド研修の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山陰海岸ジオパークガイド登録団体を対象に、学術的知識向上を図るため、学術部会等から講師を派遣し、研修を実施する。 <p>■公認ガイド認定制度の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・更新要件の一つであるスキルアップに資するものとして、地球科学に関する講座の受講機会を増やし、受講を推奨する。 ・現行2種ガイドを広域的なツアーをコーディネートできる役割のガイド（コーディネーター）と位置付け養成する。 ・ガイド養成講座のあり方、養成講座における共通テキストの作成を検討する。
実 施 スケジュール	<p>■2017年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイド研修の実施方法等の検討 ・ガイド認定制度の見直し検討 <p>■2018年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイド研修の実施 派遣制度調整（～6月）、講師派遣（7月～） ・改正後の認定制度の施行（4月～） ・ガイド養成講座のあり方の検討と養成講座における共通テキストの策定 <p>■2019年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイド研修の継続実施

期 間	2年以内に解決すべき課題
項 目	①ジオガイドの質向上とガイド団体の連携
対応案	ジオパークエリア内のガイドツアー共通アンケートを実施及び全ガイド団体へのフィードバックを通じた情報共有と連携の促進 [関連基本方針：(2), (3)]
実 施 内 容	<p>■趣旨</p> <p>各ガイド団体内での活用にとどまっていたツアー結果等の検証について、共通アンケートの検討、実施により、ガイド団体間の情報共有と連携を図り、ガイドの質向上につなげる。</p> <p>■実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイドを利用したツアーをモニターし、結果をフィードバックするための共通アンケートの作成、実施 ・ガイド団体同士、あるいは観光協会など他団体とも情報共有するためのしくみの検討及び実施
実 施 スケジュール	<p>■2017年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後の方向性検討（1月～3月） <p>■2018年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイド部会やツーリズム部会等と協力し共通アンケート作成（～9月） ・共通アンケートの実施（10月～） ・アンケート結果のとりまとめ、フィードバックの実施（3月） <p>■2019年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度実施結果を踏まえた共通アンケートの見直し等 ・共通アンケートの継続実施

期 間	2年間で解決すべき課題への対応
項 目	② ジオツーリズムを推進するための導線づくり
対応案	拠点施設のジオパーク全体の中での位置づけ、ジオパーク全体のテーマ「日本海形成に伴う多様な地形」と各ジオサイトの関連が理解できる解説や情報提供の充実 [関連基本方針：(3)]
実 施 内 容	<p>■趣旨</p> <p>8か所の山陰海岸ジオパークの拠点施設について、それぞれの特徴生かしながらも、山陰海岸ジオパークの全域のテーマとの関係を多くの人に理解してもらえよう、解説や展示、情報提供の方法を工夫し、ツーリズム振興を促す。</p> <p>■実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジオパークのテーマとのつながりの理解促進 各拠点施設の役割やジオパーク全体のストーリーと施設・サイトの関連を理解するための解説展示のあり方を検討する ・拠点施設からジオサイトへの誘導 拠点施設から周辺ジオサイトへ誘導するための展示方法の検討するためのガイド団体等との連携強化 ・拠点施設間の連携構築 拠点施設間でPR・イベントの共催等の企画、実施
実 施 スケジュール	<p>■2017年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後の方向性検討（1月～3月） <p>■2018年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拠点施設情報共有会の開催 ・各拠点施設でお互いのPR・イベント開催等の連携の実施 ・解説展示の強化

期 間	2年以内に解決すべき課題
項 目	②ジオツーリズムを推進するための導線づくり
対応案	訪問者のニーズに合わせ、テーマごとにジオサイト等をつなぐ多様なツアールート の提案 [関連基本方針：(3)]
実 施 内 容	<p>■趣旨</p> <p>ジオパークの地形・地質学的特徴や自然と人との関わりなど、一定のテーマでジオサ イト等をつなぎ、そのテーマで山陰海岸全体の理解につながるようなジオツアールート を開発し、旅行者への情報提供を通じてツーリズムの振興を図る。</p> <p>■実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学識専門員やジオパーク専門員などと協力し、テーマの検討 ・ツーリズム部会やガイド部会などと協力し、テーマに沿ったツアールートの検討 ・ルートマップの作成
実 施 スケジュール	<p>■2017年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後の方向性検討（1月～3月） <p>■2018年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ検討WGの立ち上げ、会議の開催（上半期） ・ルート検討WGの立ち上げ、会議の開催（下半期） ・ツーリズム・ガイド合同部会の開催（随時） <p>■2019年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ツーリズム・ガイド合同部会の開催、ルート確定（上半期） ・ルートマップの作成（下半期） <p>■2020年度以降</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存の散策モデルコースとともにジオツアールートを積極的にPRしていく。 ・ツアールートについてのニーズの把握に努め、必要に応じて改良や新規ルートの検 討を行っていく。

期 間	2年以内に解決すべき課題
項 目	②ジオツーリズムを推進するための導線づくり
対応案	ジオパークを横断（約120km）するロングトレイルコースの設定を検討 [関連基本方針：(2), (3)]
実 施 内 容	<p>■趣旨</p> <p>東西120kmのジオパークエリア内に連なる関係自治体と山陰海岸ジオパークトレイル協議会、山陰海岸ジオパーク推進協議会が協力し、エリア内の見所を巡るウォーキング・アクティビティを高めるロングトレイルコースの設定を推進する。エリアの連携強化を目指すシンボリックな事業展開を通じ、ツーリズムの振興も図る。</p> <p>■実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トレイル協議会と連携した香美町ルートの検討、設定 ・トレイル協議会、京丹後市、豊岡市と連携したルートの検討（検討会議、現地調査など） ・ルートの決定、マップ・案内看板の作成 <p>【参考】</p> <p>山陰海岸ジオパークトレイル協議会（H27.7.1設立、鳥取県を中心にエリア西部の観光団体、商工団体、ガイド団体、行政で構成。）が主体となり、これまでに鳥取市（JR鳥取駅）から新温泉町（JR浜坂駅）まではルート設定が完了している。</p>
実 施 スケジュール	<p>■2017年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後の方向性検討（1月～3月） ・新温泉町（JR浜坂駅）から香美町（JR香住駅）までのルート設定（～3月） <p>■2018年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・香美町（JR香住駅から豊岡市境まで）ルートの検討、設定 ・豊岡市ルート及び京丹後市ルートの検討 ルート検討会議、ルート現地確認、沿道施設等の確認など <p>■2019年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊岡市ルート及び京丹後市ルートの検討、仮設定 ルート検討会議、ルート現地確認、沿道施設等の確認、関係機関調整など <p>■2020年度以降</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルートの正式決定、マップ、案内看板の作成 ・ルートを活用したイベント開催等によるPRなどをトレイル協議会と連携しながら検討していく。

期 間	2年間で解決すべき課題への対応
項 目	③ 新温泉町立山陰海岸ジオパーク館の情報収集発信機能の強化
対応案	新温泉町立山陰海岸ジオパーク館のアーカイブや展示充実による施設の機能向上 [関連基本方針：(3)]
実 施 内 容	<p>■趣旨</p> <p>新温泉町立山陰海岸ジオパーク館を、体験や交流など「人とジオパーク活動がつながるための拠点」を整備コンセプトに、アーカイブや展示を充実させることにより、ユネスコ世界ジオパークの中核施設にふさわしい機能を付与する。</p> <p>■整備方針</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学習機能の充実（地形の成り立ちや水や風で動く大地などを理解するためのジオラマの整備等） 2 情報発信機能の向上（イベント情報などホームページの更新・改修、学術書・学術論文の収集、データベース整備の検討） 3 体験や交流の中核として利用者が使いやすい施設整備（体験コーナー用機具制作、エアコン・エレベーター改修、たまり場機能整備等の検討） 4 ビジターセンター機能の向上（全体像を把握する映像上映・受付フロア拡大・インバウンド対応音声ガイド導入等の検討） 5 企画展示機能の向上（地球や地層の活動との関係が理解できる解説パネルの整備、展示品制作等） <p>■実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指摘事項に対応し、かつ協議会事務局、学識専門員、府縣市町、ガイド、地域住民の意見を反映した機能強化を図るためのタスクフォースを設置 ・交付金（兵庫県等）の活用 ・博物館関係者などの意見を反映したわかりやすい展示を工夫 等
実 施 スケジュール	<p>■2017年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備協議 タスクフォースの立ち上げ（1月） ・他地域視察 伊豆半島ジオパーク（1月）、室戸ジオパーク（2月） 糸魚川ジオパーク（3月） ・第1回協議 整備方針案作成（2月） ・第2回協議 整備方針、スケジュール決定、予算案決定（3月） <p>■2018年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・整備着手、次年度整備協議 <p>■2019年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続整備、中長期的整備協議、短期的整備完成

期 間	2年間で解決すべき課題への対応
項 目	③ 新温泉町立山陰海岸ジオパーク館の情報収集発信機能の強化
対応案	鳥取県立海と大地の自然館を新温泉町立山陰海岸ジオパーク館と同様に中核拠点化。両館の役割分担を明確化し、2館が中核拠点として補完し合う体制の構築 [関連基本方針：(3)]
実 施 内 容	<p>■趣旨</p> <p>2館の役割分担を次の通り明確化することにより、両館が補完し合う形で、来訪者が山陰海岸ジオパークの全体の理解できる体制を築く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>鳥取県立海と大地の自然館（展示学習型中核拠点施設）</u> 全ての来訪者にジオパークについての学習の場を提供し、山陰海岸ジオパークの普及啓発を促進。 ・ <u>新温泉町立山陰海岸ジオパーク館（体験交流型中核拠点施設）</u> 住民やジオパーク関係者が気軽に集える交流の場を提供し、調査研究や商品開発、ガイドのスキルアップ等を促進。 <p>■実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各館の役割分担に応じた改修 ・ 事務事業の共同実施 <p>■想定事務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ イベントの共同実施（2館往来で成果が得られるようなイベントを想定） ・ イベントの共同実施に伴う物品等の共同調達 ・ イベントの共同実施に伴う職員の相互派遣・交流 ・ ホームページの共同制作 ・ プレスリリース等の共同実施 など
実 施 スケジュール	<p>■2017年度</p> <p>1月 WG立ち上げ、各館の役割に応じた改修素案、事業の共同実施の検討</p> <p>3月 検討結果を取りまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 2館のホームページを年度内に一部改修 ② 2館のイベントの共同実施に向けた新年度事業の調整 <p>■2018年度</p> <p>4月 事業の共同実施を試行</p> <p>7月 夏休みイベントの共同実施（磯部の観察会、星空観察会など）</p> <p>9月 上半期の実施結果を取りまとめ、運営委員会で報告</p>

山陰海岸ジオパークステップアップ会議 実績報告書

1 概要

地域間や関係者間の連携や対話不十分であることや、運営体制の持続可能性に課題があるとされたことを受け、これらの課題を克服し今後のジオパークのあり方を議論するため、3回の連続会議を開催した。山陰海岸ジオパーク推進協議会が主催し、官民や地域の枠を超えた関係者が集い、回ごとのテーマについてワークショップ形式で話し合った。会議で得られた意見を本アクションプランにも反映し、ユネスコ世界ジオパークとしての地域の未来の姿を共有し、指摘事項の改善を目指していく。

2 開催日時・開催地・参加人数・テーマ

第1回：平成30年1月26日(金)13:30～16:30、京丹後市、50名

「山陰海岸ジオパークで何をしたい？どんなジオパークにしたい？」

第2回：平成30年2月4日(日) 13:30～17:00、豊岡市、50名

「連携するってどんなこと？」

第3回：平成30年2月19日(月) 13:30～17:00、鳥取市、60名

「山陰海岸ジオパークの合い言葉を作ろう！」

3 主な内容

(1) どんない地域にしたい

最も多かった意見が「誇りを持てる地域」。次いで、観光客の増加や地域への定住も含め「人が訪れる地域」や、地域住民や子供たちが「地元のことをよく知っている地域」などの意見があった。

(2) 理想のジオパークとは

(1)との関連で、「地元を誇りを持つきっかけになるジオパーク」という意見が多かった。一方で、ジオパークを活用した地域の自立という観点から、観光や関連産業を含めた「稼げるジオパーク」という意見も多かった。

(3) 連携できていないと思うこと

指摘事項に深く関係している連携不足について、自分自身を振り返った。その結果、一番多くの意見が集まったのが「自治体（府县市町）間の壁」であった。関係者だけでなく、地域住民も巻き込んだ「情報共有が不足している」という意見や、自分の地域のことしか考えていない、あるいは連携の必要性を感じていないような「意識の問題」も指摘された。

(4) 連携するためにはどうするのか

(3)の課題解決の方法を話し合った。「情報共有と情報発信」をしっかりと行うために、

顔と顔を合わせて話す場づくり、成功体験の共有、「ジオ便り」の発行、メールやネットの活用などの意見が出された。また、自治体の枠を超えた連携の核として「コーディネーターの必要性」を求める声もあった。

(5) つながるための合い言葉

山陰海岸に欠けている連携を強化するための合い言葉を考えた。「ひとつになる」「手をつなぐ」「交流」といったワードが多く出され、議論したグループごとに以下の案が出された。

- ① 多様性を活かそう！でも山陰海岸はひとつ
- ② ふるさとの海と山遊びと食のジオパーク
- ③ 山陰の大地と私たちの「物語」をつくろう
- ④ 見て食べて学んで共有する地域の魅力を次世代につなぐ山陰海岸ジオパーク
- ⑤ 地域間交流を広めよう山陰海岸にもっと光を
- ⑥ かに取りパークを横歩き！手をつないで語ろうよ
- ⑦ もうかる・もうける GP ジオパークは郷土愛・地域愛だ みんなで一つになろう協力しよう
- ⑧ 楽しみつくそう山陰海岸ジオパーク
- ⑨ 日本誕生で結ばれる面白いみんな仲良しジオパーク
- ⑩ 1人1人手をつないで山陰海岸を味わおう
- ⑪ 日本海のキセキ（奇跡・軌跡・奇石）
- ⑫ 人つなぐ山陰海岸
- ⑬ ジオパークは自立できるジオツーリズムの実現である

4 会議での意見とアクションプランへの反映

No.	意見	反映
001	<ul style="list-style-type: none"> ・人と人とのコミュニケーションでつなぐ ・ジオについて住民に関心持ってもらう場が必要 ・人を知らないからつながらない ・みんなで集まって成功体験を共有 ・顔を見て情報共有 ・広すぎて集まって話し合う機会がなかった ・連携するための共通した目標の欠如 ・話し合いを続けるしかない 	<ul style="list-style-type: none"> ・山陰海岸ジオパークステップアップ会議の開催(P4)
002	<ul style="list-style-type: none"> ・府県市町単位の壁がある ・3府県の取組や人をつなぐシステムが必要 ・地域の良い取組を事務局が周辺に伝える ・府県市町独自事業をコーディネートする 	<ul style="list-style-type: none"> ・府県市町連携会議の質向上(P5)
003	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションが組織、活動をつなぐ ・住民共通のジオパークになる ・壁を取り払うため、行政・民間の歩み寄りを ・住民を巻き込んだ情報共有を ・共通の目標・キャッチコピーをつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動目標を共有するためのコミュニケーションの促進(P5)

004	<ul style="list-style-type: none"> ・観光と教育だけのジオパークではいけない ・枠組にとらわれない取組を ・各部会の動きが分かりづらい 	<ul style="list-style-type: none"> ・各部会の議論の活性化(P6)
005	<ul style="list-style-type: none"> ・観光だけでなくあらゆる産業をつなげる ・ジオを契機とした異業種・団体の情報交流を ・多様なつながりを創る 	<ul style="list-style-type: none"> ・合同部会の開催(P6)
006	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーが必要 ・親分肌の人が必要 ・人と人、団体と団体をつなぐ人材 ・3府県をつなぐコーディネーター ・協議会の考え方が行政的 ・協議会の中核は専任に 	<ul style="list-style-type: none"> ・ジオパークの経営、戦略立案に携わるマネージャーの発掘と雇用(P7)
007	<ul style="list-style-type: none"> ・行政の役割は大きい。先頭に立って調整を ・短期間で人事異動する行政のしくみがよくない ・行政に詳しい自治体OBを雇用する 	<ul style="list-style-type: none"> ・自治体OBの事務局長への就任(P8)
008	<ul style="list-style-type: none"> ・行政の役割は大きい。先頭に立って調整を 	<ul style="list-style-type: none"> ・会長顧問等会議の設置
009	<ul style="list-style-type: none"> ・関係者だけでなく地域住民を巻き込んだ情報共有(出前講座) ・知識のバイブル・実践 	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局や関係者を対象としたユネスコIGGPガイドライン勉強会の実施(P10)
010	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイドの地域情報力の向上 ・ガイド同士の交流と連携 ・他エリアのガイド案内によるスキルアップ ・地域を越えたツアーを行えるガイド育成 ・エリア全体としての魅力発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイド研修の充実と公認ガイド認定制度の見直し(P11)
011	<ul style="list-style-type: none"> ・他地域のガイドとの連携強化 ・ガイド同士の交流と連携 ・ツアーの振り返りをガイドみんなで共有する ・情報の共有と結果のフィードバック ・リピーターを多く作ることによる来訪者増 	<ul style="list-style-type: none"> ・共通アンケートの実施及びフィードバックを通じた情報共有と連携(P12)
012	<ul style="list-style-type: none"> ・施設間のイベント情報が伝わらない ・3府県にまたがるストーリーが必要 ・拠点施設の利用促進 ・拠点施設で何が分かるのか知らない ・拠点施設をめぐるようなイベントがない 	<ul style="list-style-type: none"> ・拠点施設のジオパーク全体の中での位置づけ、テーマと各ジオサイトの関連が理解できる解説や情報提供の充実(P13)
013	<ul style="list-style-type: none"> ・エリア全体としての魅力発信 ・個別地域を越えたツアーコースの設定 ・域内周遊ツアーの造成が必要 ・広域なツアーやテーマ別ツアー ・府県を越えた新たなツアー、民間の連携による新たな誘客 	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマごとにジオサイト等をつなぐ多彩なツアールート提案(P14)

014	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3 府県をつなぐ「ジオツーリズム」 ・ 東西 120 km を活用したイベントの開催 ・ 広域で実施できるイベントの開催 ・ 海や山のアクティビティで盛り上げる ・ トレイルでつなぐ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ロングトレイルコースの設定の検討 (P15)
015	<ul style="list-style-type: none"> ・ 拠点施設で何が分かるのか知らない ・ 拠点施設をめぐるようなイベントがない ・ どこに行けば交流・連携できるか情報がない ・ ジオパークがきっかけの異業種交流の場がない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鳥取県立海と大地の自然館を中核拠点化し新温泉町立山陰海岸ジオパーク館と補完し合う体制を構築 (P17)